

事例研究報告

**特別支援学校中学部生徒が
口頭で伝えられた名称の硬貨を
選択することができるための指導**

生徒の実態

- 物の名称を想起することが苦手である。
(身近な人の名前や野菜の名前, 硬貨の名称等)
- 単語の語頭音を伝えると想起しやすい。
- 伝えたいことがあっても名称・言葉が想起できず,
伝えることを諦めてしまうことがよくある。
- 濁音や拗音が入った単語は発音が不明瞭になる。
- ひらがな文字も濁音や拗音が入ると読むことが
難しい。

保護者の願い

- ・お金の理解，金銭感覚を身につけてほしい。
- ・身近にある物の名前を理解し，言えるようになってほしい。
- ・今日あった出来事等を家族に話ができるようになってほしい。

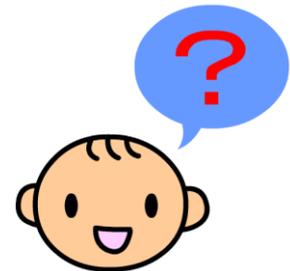
教員の願い

- ・伝えたいことを伝えることができるようになってほしい。
- ・身近な物の名前を言えるようになってほしい。



指導目標（案）

として1回目コンサルテーションで相談



アドバイザーからの助言

・野菜の名称について

記録からは100%に届かなくても8割くらいできているので、対象生徒の理解する力を考慮して、指導は終了する。

・お金の名称について

よく似た音の組み合わせの別の物を言ってしまうことがある。エピソードをつけて意味づけし、具体物と硬貨をマッチングする学習から始める。細かい段階を追っていくことが重要である。



指導目標へ！



助言を受けて指導目標の見直し

指導目標1

「〇〇が買える△円はどれ？」と言われて対応する硬貨を選んで手渡すことができる。

STEP I : 具体物に硬貨をマッチングすることができる。

STEP II : 硬貨に具体物をマッチングすることができる。

STEP III : 指示を聞いて具体物に対応した硬貨を選ぶ。

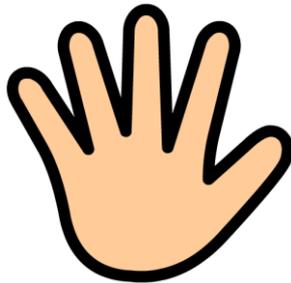
正解率の低い3つの硬貨に絞って学習をする。



指導の手続き

BL: 硬貨の名称を聞いて硬貨を取ることができる。

5円をください



指導の手続き

STEP I : 具体物と硬貨をマッチングすることができる。

STEP I - ① 5円と500円

500円、5円の品物はどれ？



500円



50円



5円



正解率100%が3日続いたら
達成とし、次のSTEPへ進める。

指導の手続き

STEP I : 具体物と硬貨をマッチングすることができる。

STEP I - ② 5円と50円と500円

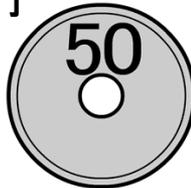
500円、5円、50円の品物は
どれ？



500円



50円



5円



正解率100%が3日続いたら
達成とし、次のSTEPへ進める。

指導の手続き

STEP II : 硬貨と具体物をマッチングすることができる。

雑誌(チョコ、ガム)が買える
500円(50円、5円)はどれ？



5円



50円



500円



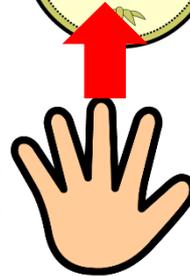
正解率100%が3日続いたら
達成とし、次のSTEPへ進める。

指導の手続き

STEPⅢ：指示を聞いて具体物に対応した硬貨を選ぶ。

STEPⅢ－① 練習あり※各硬貨3回ずつ練習後、ランダムに出題

雑誌(チョコ、ガム)が買える
500円(50円、5円)はどれ？



具体物提示あり

STEPⅢ－② 練習なしでランダムに出題

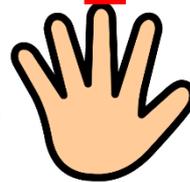
手続きは上と同様

指導の手続き

STEP IV : 指示を聞いて対応した硬貨を選ぶ。

STEP IV - ① 提示する硬貨 5円、50円、500円のみ

雑誌(チョコ、ガム)が買える
500円(50円、5円)はどれ？



具体物提示なし



STEP IV - ② 提示する硬貨 1円、5円、10円、50円、100円、500円

手続きは上と同様

1円、10円、100円はダメー

記録方法と記録

試行回数に対して何問正解できたか記録し、正解率(%)を記録する。

STEP I、STEP II、STEP III-①については練習(各硬貨3試行)を除く、ランダムに出題したテストの正解率を記録する。

